平成 26 年 5 月 25 日発行

# ライオン学校伝書鳩通信

～3 度目の春を迎えて～

ライオン学校の活動を、学生スタッフ中心で運営するようになってから 3 度目の春を迎えました。被災地の状況や子どもたちの様子、また私たち自身も変化してきたのだということを感じる春となりました。

## 新校舎での運動会～復興は遠い？～

ライオン学校の活動には、近隣の 2 つの小学校に通う子どもたちが参加しています。5 月 17 日の支援日は、偶然にもこの 2 つの小学校の運動会と重なりました。一方の小学校の運動会に参加するのは今年で 3 度目です。一方で、もう 1 つの小学校については、私たちがその小学校を見に行くこと自体、初めてのことでした。その小学校は 3.11 の津波で壊れてしまい、ずっと改修工事が行われていたためです。その改修工事は今年の 3 月に終了し、新校舎で初めての運動会が行われることになりました。私たちが駆けつけると、ちょうど運動会の歌を歌っているところでした。子どもたちの元気な歌声がにぎやかに響く一方で、校庭はなんとなくがらんとしています。震災後、入居できた仮設住宅や、新しい家の位置関係で転校を余儀なくされた児童が多く、児童数は震災前に比べて半分ほどに減ってしまったそうです。そのため、運動会も午前中だけのプログラムになっていました。この小学校にはライオン学校に参加している小 5 の男の子が通っています。私たちがその男の子を探していると、男の子のお母さんとおばあさんが、私たちを見つけて声をかけてくれました。久しぶりに会った男の子のおばあさんは、早々に「抽選で復興住宅への入居が決まったんですよ」と嬉しそうに教えてくれました。小 5 の男の子は、震災前までお母さんとおじいさん、おばあさん、おばさんと一緒に 1 つの家で暮らしていました。震災後はしばらく避難所で過ごし、仮設へ入居するときも、抽選が行われました。抽選で当たった仮設住宅は、家族みんなで住むには狭すぎたため、男の子はお母さんと 2 人で住み、他の 3 人は、少し離れたところにある仮設住宅に入居せざるを得ませんでした。今回復興住宅が当たったと聞いて、やっとまた家族全員で暮らせるのかと思いましたが、当選した部屋は、男の子とお母さんが暮らすスペースしかないようです。おばあさんたちは、また別で復興住宅の抽選に応募しなければなりません。さらに、男の子が復興住宅に入居できるのは、男の子が中学に入学する 2 年後の予定です。入居が決まった住宅はまだ建設されておらず、建設予定地の水田を均している段階です。おばあさんたちが復興住宅に入居できるのは、いったいいつになるのでしょうか。

また、これまで仮設住宅で生活していた小 6 と小 3 の姉弟は、来年には復興住宅へ入居できることになりました。この姉弟は、

仮設住宅への入居を機に、仮設住宅の近所にある小学校へ転校してきました。そして、復興住宅へ引っ越す来年には、また別の地域にある学校へ転校することになっています。今回の支援では、復校住宅への入居という嬉しいニュースを聞くことができました。その裏で、スピーディできめ細かい復興の実現は自分たちが外から考えているほど、簡単なことではないのだということも知りました。

## ライオン学校はこれからもつづく

ライオン学校の雰囲気は、少し変わりつつあります。継続的に参加していた子どもたちの多くが、以前はライオン学校の友だちやスタッフと一緒に遊ぶことをとても楽しみにしていて、集団遊びには 12～13 人の子どもたちが参加していました。しかし最近では、みんなで遊ぶと言っても集まるのは 6～7 人です。中学生になり、部活動で忙しくなった子が増えたことも一つの要因ですが、まだライオン学校で遊ぶことを必要としている子がいる一方で、近所の友だちや家族と楽しく休日を過ごすようになった子も増えてきていると感じます。しかし、どの子も全く来なくなるという訳ではなく、暇を見て顔を出し、近況報告をしてくれます。また、中学生になった子たちは、部活動の後、ライオン学校の活動を行っている集会所にやってきて、最近の出来事を話したあとに、勉強をしていくようになりました。それぞれの子どもたちなりにライオン学校との関わり方を変えながら、関係を続けようとしているのではないかと感じました。子どもたちの中で、ライオン学校という場が「居心地のいい場所」から「大切にしたい場所」に変わってきているのかもしれません。

それは別の場面でも感じられました。最近では、いつも使わせていただいている仮設の集会所の利用マナーが厳しく問われるようになってきました。子どもたち向けの支援活動をしているもう 1 つの団体は、集会所の使い方が荒かったり、遊び中に備品を壊してしまったりしたため、集会所の利用禁止を言い渡されてしまったそうです。その話を聞いて、スタッフも子どもたちもドキッとしました。そして「集会所の中は、勉強をする人か、静かに遊びたい人が使って、走って遊びたい人は外で遊ぼう」とスタッフが言うと、子どもたちはすぐに納得して、そのルールをみんなで守ろうとしていました。これまでは、何度注意しても遊びに夢中で、集会所の中で走る・ボールや座布団を投げるという行為をなかなか止められませんでしたが、今回の支援では、走りたくなったら「外に行って鬼ごっこしようよ」と提案するようになりました。

その日限りで遊ぶという関係ではなく、この先もライオン学校の仲間と遊び場所を維持していくには、今どういう行動をとればいいかということを頭の片隅で考え始めているのかもしれません。私たちの定期的な支援活動は今年度で終了する予定です。私たちスタッフの都合で終了するわけですが、子どもたちの

中に芽生えたライオン学校のつながりを、次につなげるにはどのような終わりかたをすればよいのか、私たちの課題です。

## 広がる支援の輪

ライオン学校はこれまでも、多くの方々からの寄付金に支えていただいたことによって、活動を続けてくることができました。そして 2 月に行われた Ed.ベンチャーの総会でも、寄付の呼びかけをさせていただいたところ、約 10 万円もの寄付金が集まりました。一度にこのような多額の寄付を集められたのは初めてのことでした。また、昨年末に応募していたキリン福祉財団からは、30 万円の助成を受けられることが決まりました。ライオン学校の活動を学生中心で運営するスタイルに変更してから、助成金を得られたのもこれが初めてです。ライオン学校の活動をより多くの人々に理解してもらい、協力していただけるようになって、私たちも少しは進歩できたのかもしれないと感じます。

少しでも子どもたちが成長できるような支援を行えるように、スタッフ一同、頭をフル回転させて企画を考えていきます。ご協力ありがとうございました。そしてこれからもライオン学校をあたたかく見守ってください。

---

【活動記録】

**■支援メンバー**

**(2 月 23 日:個別支援)** 今井美里、大林沙紀、柿本隆夫

**(5 月 17 日・18 日:定期支援、個別支援)** 甘利悠貴、今井美里、大林沙紀、藤原弘輝

**■寄付を頂いた方(1 月 1 日～5 月 20 日)敬称略**

池田喬、大野かよ、柿本隆夫、グイ キム チャーイ、草野はるか、小西永里子、神戸芳子、清水睦美、清水木綿子、高柳恭介、土橋雅子、眞田美津子、松永雅文、村本綾、内藤順子、西田順子、萩野谷洋一、馬場有希、福田佑哉

**■助成金**

「キリン子育て公募助成」キリン福祉財団より

---

**！寄付のお願い！** 継続的な支援のためにお願いいたします。寄付を頂きました際には、お手数ですが右下記連絡先までご一報お願いいたします。

**ゆうちょ銀行**

**店名:〇五八店(ゼロゴハチ店) 店番:058**

**番号:普通 3385189**

**ライオン学校(ライオンガッコウ)**

**※ゆうちょ銀行からの振込の場合**

**記号:10510 番号:33851891**

グループ名 : **ライオン学校**

TEL: **080-6554-8762(代表:今井)**

Email: **info.lionschool@gmail.com**